



平成30年度 第2回

いしかわ多職種連携教育プロジェクト



報告書

平成31年2月2日(土)
12:30~16:30

金沢大学宝町キャンパス
医学類教育棟B1階 大多目的室

主催：金沢大学医療系学生団体 konnect

目次



1. はじめに

金沢大学大学院保健学専攻 看護科学領域 助産学分野 2年
植木 日向子

石川県立高松病院
金沢大学大学院保健学専攻 看護科学領域 博士前期課程1年
大村 裕佳子

2. 資料

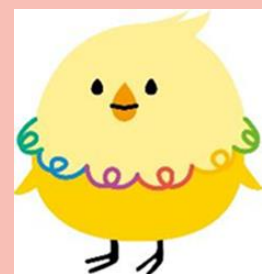
- ・イントロダクション
- ・第一部 アイスブレイク「“子育て”のイメージを共有しよう」
- ・第二部 「多職種ごちゃませカンファ」

3. ごちゃませカンファ ポスター集

4. 参加者内訳

5. アンケート集計

6. 振り返り&アイデア出しシート



1. はじめに

**Ishikawa More
Amazing IPE**



この度は、第2回いしかわ多職種連携教育プロジェクト ママまいびーを開催することができましたことを大変嬉しく思います。多くの皆様のご協力やご支援により本会を開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます

本プロジェクトは、助産学を学ぶ学生のニーズから誕生しました。第1回のあいまいびーに参加し、多職種との連携の必要性について学ぶことができましたが、将来助産師になる自分にとって、あいまいびーで議論された事例は介護の問題ということもあり、少し遠い問題のような気がしていました。そのため、もっと自分の専門分野に近いIPEもあつたらいいなと感じたことが本プロジェクトの出発点となっています。

まだまだ寒さが厳しい2月にもかかわらず、多くの学生や実務者の方々にご参加いただき、とても活気のある会を開催することができました。

また次年度以降も、学生の学びのニーズから新たなIPEが生まれ、多くの学びが生まれることを願っています。あいまいびーのさらなる発展に向け、今後も皆様のご協力やご支援をいただけたらと思います。

金沢大学大学院保健学専攻 看護科学領域 助産学分野2年
植木 日向子

第1回あいまいびーを終えた後、「学生の学びのニーズ」と「自然発生的な学びの連鎖」の重要性を再認識し、次回はどのような企画になるのかと胸を躍らせていました。私自身がこの数年の間に祖母の介護、妊娠・出産を経験し、子育てと介護の連続性、他者に「頼る」「委ねる」事の難しさと必要性を痛感していたため、助産師学生植木さんの「退院した後のお母さんの生活を知りたい」という学びのニーズに出会った時、「子育て支援IPE」を開催したい！と強く感じました。

そこで、産後に大変お世話になった、子育てスペース「ベイビーリゾートコロコ」の丸山さんにご相談したところ、子育て支援アドバイザーの金田さんをご紹介頂きました。25年と言う長きに渡り、深刻な子育ての課題に向き合ってきたその膨大な経験知に、学生も私も目から鱗の連続でした。準備段階から当日、振り返りまで大変なご尽力を頂き、心より感謝しております。

「卒前卒後を繋ぐ学びのサードプレイス」を目指すこのあいまいびーが、今後も学生の持つ素直で純粋な学びのニーズを軸に、「楽しく」発展して行くことを、今後も陰ながらお手伝いして行きたいと思っております。最後に、ご多用中にも関わらず本企画にご参加頂いた皆様、ご尽力下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

石川県立高松病院
金沢大学大学院保健学専攻 看護科学領域 博士前期課程1年
大村 裕佳子

2. 資料

イントロダクション

平成30年度 第2回
いしかわ 多職種連携教育プロジェクト

ママまいびー
More Amazing MAMA IPE

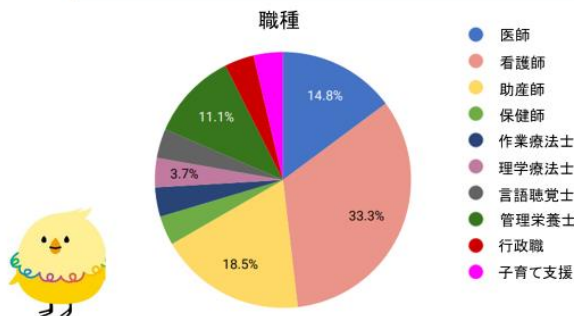
子育てを楽しめたら、介護も楽しめる？！

ママと子どもが過ごしやすい社会は
きっとみんなが過ごしやすい。

2019年2月2日(土)
12:30~16:00



本日のごちゃませグラフ①



ママまいびーの目的！

1. 周産期・子育てに携わる多くの人と交流する
2. 自身の職種の専門性を認識する
3. 多職種連携の重要性を肌で感じる
4. 次回の開催に向けた仲間づくりをする
5. 今後の学業や実務への活力を得る



IPE...「専門職連携教育」

Inter Professional Education

複数の領域の専門職者が連携および
ケアの質を改善するために、同じ場所で
ともに学び、お互いから学び合いながら、
お互いのことを学ぶこと

Occasions when two or more professions learn with,
from and about each other, to improve collaboration
and the quality of care. CAIPE* 2002

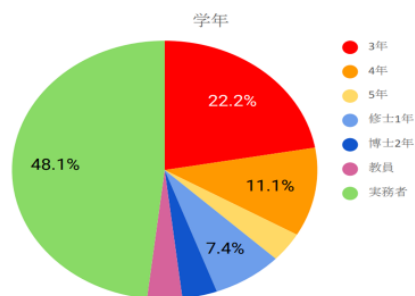
* CAIPE: 英国専門職連携教育推進センター(1987年設立)

おしながき

時間	内容
12:30 ~ 12:35 (5)	開会のごあいさつ
12:35 ~ 12:50 (15)	Whatまいびー? イントロダクション
12:50 ~ 13:10 (20)	第一部 アイスペイキング
13:10 ~ 13:40 (30)	第二部 多職種ごちゃませカンファ・前半 ~休憩~
13:40 ~ 13:50 (10)	多職種ごちゃませカンファ・後半 ~休憩~
13:50 ~ 14:40 (50)	多職種ごちゃませカンファ・後半 ~休憩~
14:40 ~ 14:50 (10)	ポスターツアー・まとめ
14:50 ~ 15:20 (30)	振り返り
15:20 ~ 15:40 (20)	閉会式・写真撮影・みんなで片づけ
15:40 ~ 15:55 (15)	



本日のごちゃませグラフ②



学生時代からIPEを学ぶ意義！

1. 一般市民に近い、自由な意見を持っている
2. 自職種について考える機会となる
3. 他職種の専門性を知ることが出来る
4. 職種間コミュニケーションの重要性を体験することが出来る
5. 産後のお母さんとその家族の意思を尊重したケアについて考えることが出来る
6. 将来ともに働く仲間と顔の見える関係を構築することが出来る

とやまいびーのコンセプト

1. とやまいびーは「**学びの場**」である
→ 多職種連携教育の教育理念
「同じ場所で、お互いから学び合う」
→ **アクティブラーニング**を原則
2. とやまいびーは「**交流の場**」である
→ 学校間・職種間の交流を育む
→ 教育の現場と臨床の現場をつなげる
3. **PDCA**サイクルで企画の質を高め続ける



専門性の殻を破れ！！

- ・自身の専門性を磨くことに専念しては、**多職種協働**を通じてその専門性を効果的に発揮する事はできない
- ・専門外領域の課題の広がり、自分以外の専門職の役割を理解する必要がある

2016.1.17 かなざわIPE



そして今回は・・・
学生の学びのニーズから誕生した
その名も



ママまいぴーのお約束！

本日の経験・出会いを共に**楽しもう！**
批判はしない！互いに**尊重し合おう！**
ちょっと積極的になり、一回は発言しよう！

特にお願い

先生へ：授業の評価には反映させないでね♡
先輩へ：後輩には優しくね♡
ベテランへ：初心者優しく誘導してね♡
聞かぬは一生の恥！質問も大事な発言です！
よいよいケアプランを作成することが目的ではない！
相互理解と良好なチームワークが目的！



協働とは？

複数の主体が、何らかの目標を共有し、
ともに力を合わせて活動すること

「顔の見える関係(仲良くなる)」
+
「目標(危機意識)の共有」
+
「チームワーク」

2018年6月23日 金大生による
新たなプロジェクトが誕生・・・
その名も



石川県で もっと 素晴らしい
多職種連携教育を！！

産後のお母さんたちを
サポートしていくためには？

妊娠から出産、産後、育児期にある
お母さんと赤ちゃん、そして家族を
地域で活躍する専門職が
それぞれの立場から、
サポートしていくことが重要！



やってはいけないこと！

- ・ 宗教的勧誘！
- ・ 政治的勧誘！
- ・ 営利的勧誘！
- ・ セクハラ・パワハラ・モラハラ！
- ・ SNSなどを用いた個人の批判！
- ・ 個人情報の流布！
- ・ ストーカー的行為！

上記を行った方は、今後の参加を禁じます



第一部 アイスブレイク「“子育て”のイメージを共有しよう」

第1部 アイスブレイク



まずは、自己紹介タイム！

- 名前
- 所属
- 職種
- 自分の名前の由来



• 持ち時間は1人1分間
お互いのことを知しましょう！



“子育て”のイメージを共有しよう

- 自分の思う・感じる“子育て”を出し合しましょう
- 子育て経験者 → (予想外に) 楽しかったこと・嬉しかったこと
大変だったこと・苦労したこと
- 子育て未経験者 → 楽しそうなこと
大変そうなこと

- 手元のふせんにどんどん書きだしてください！
- 書いたふせんはまだ手元にキープ。
- 3分後にグループで共有します。



共有してみましょう！

- A3用紙2枚にそれぞれ、
楽しそうな／楽しかったこと
大変そうな／大変だったこと
を貼って、意見を共有しましょう

• まとめられそうな意見はまとめてみましょう

• 時間は6分間です



どんな意見が出ましたか？

- 意外と大変？意外と楽しい？？
- 子育て経験者と未経験者での違い
- 人によっても着目点が違う
- 人それぞれの育ち、感じ方に基づく



グループごとのまとめ (上から順に楽しい・嬉しいこと、大変なこと)

<Aグループ>

嬉しい♡

ママと
言ってもらいたい

一緒に
あそびたい

寝顔が
かわいい

子どもの色んな
将来を想像
できる

赤ちゃんが
とてかわい

自分が"できた"から
こ.セリからこ
こを子どもに...

親で
すごい!!

人の車輪が
広がる

心通じな
くて.ちゃんと
育っている

親も子ども
初心者から
始まる

白なで
十品カ
親も育つ

子どもの成長
見られる

居るだけで
皆幸せ♡

食べた1位の
可愛さ♡

子どもの成長
を近くで見れる

A B

大変

イメージと
現実の
違い

他の人との交流が
少なくなる

赤ちゃんのときは
1日中ヒリヒリしてる
時間が無い

起きると悪魔
眠ると天使

自分に似て
嬉しい?
嬉しくない?

あやし方に
困りそう

抱っこで
手がつかれそう

子供が寝た
反省の日々
ごめんね...

専門耳が
邪魔とする

家事との両立
仕事との両立

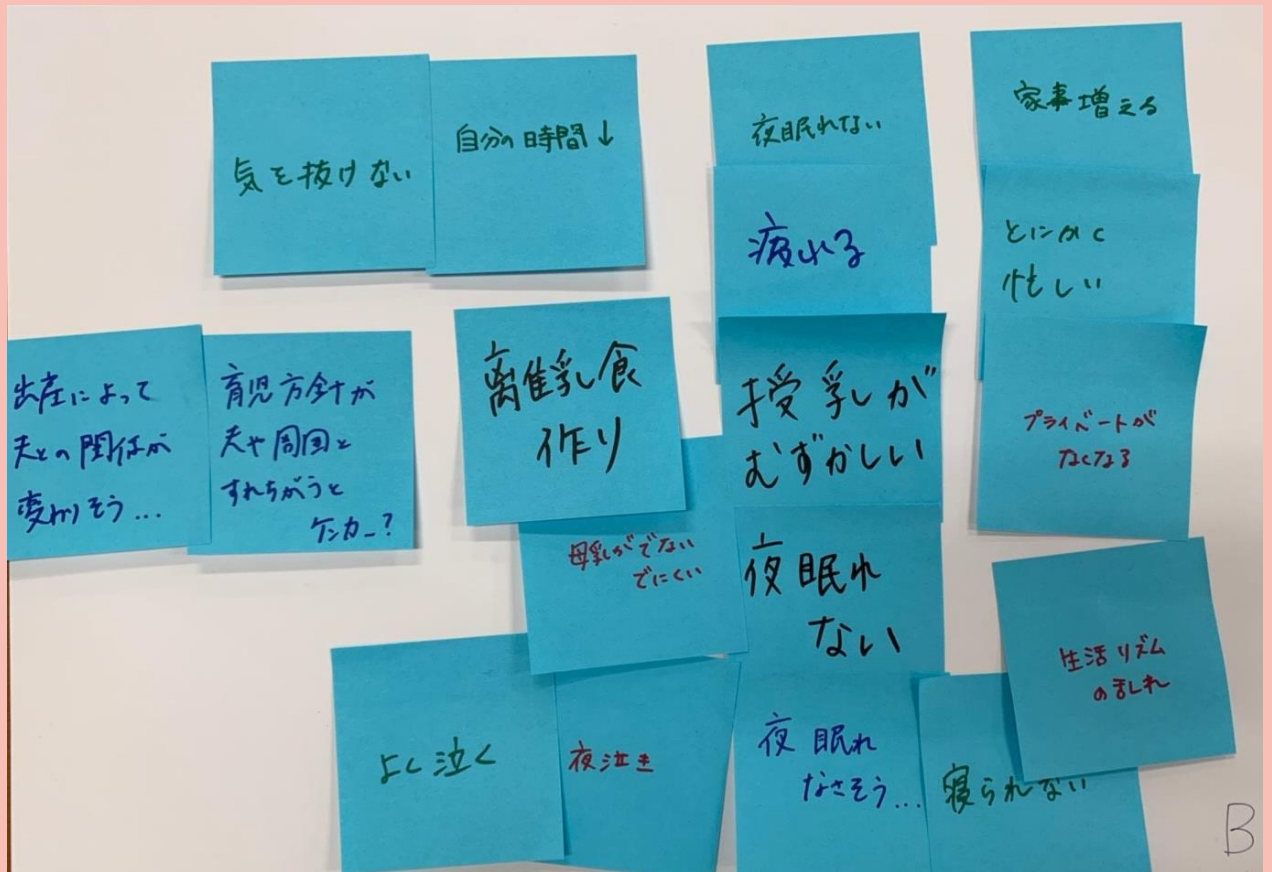
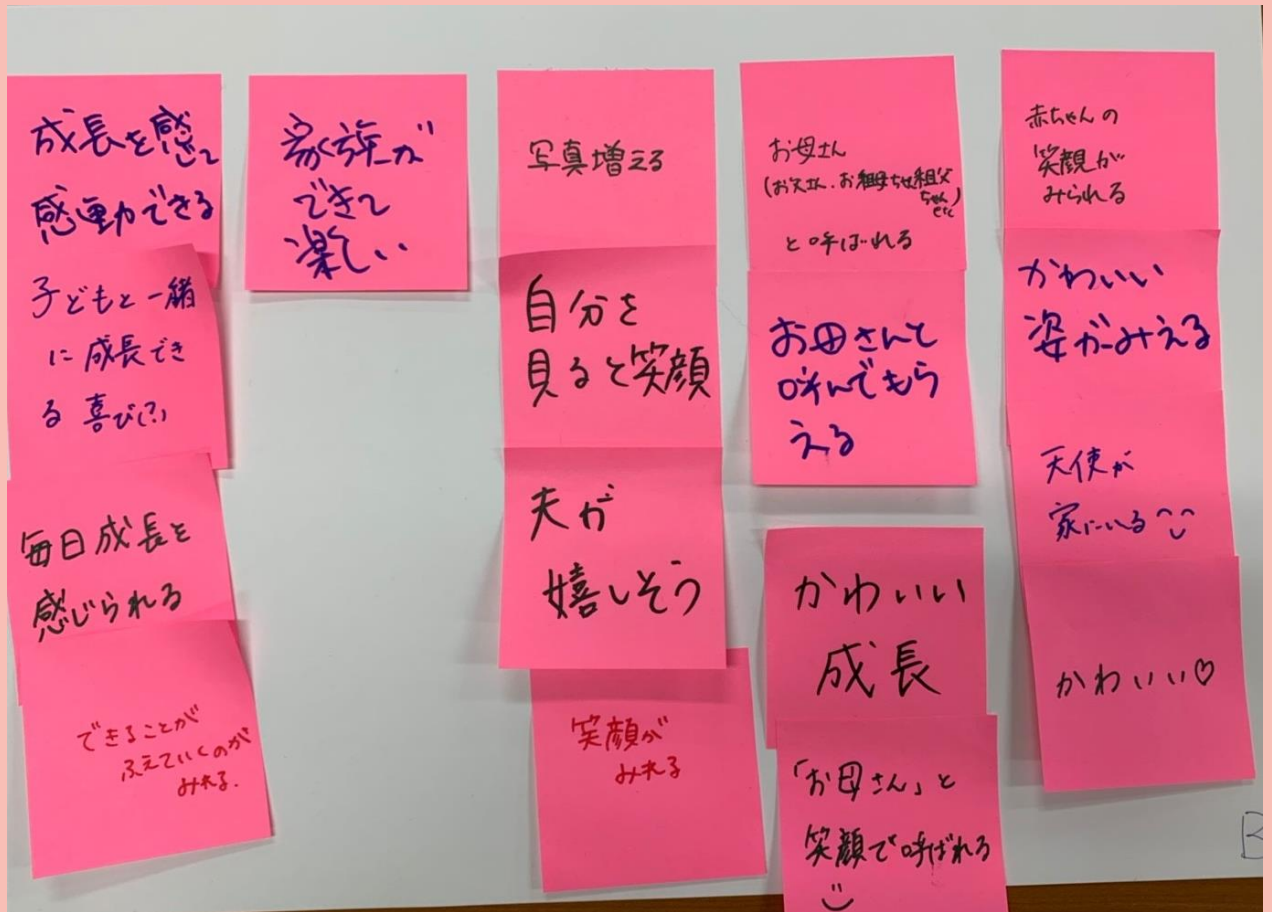
夜中の授乳
(不眠...)

夫・周りへの
イライラ?

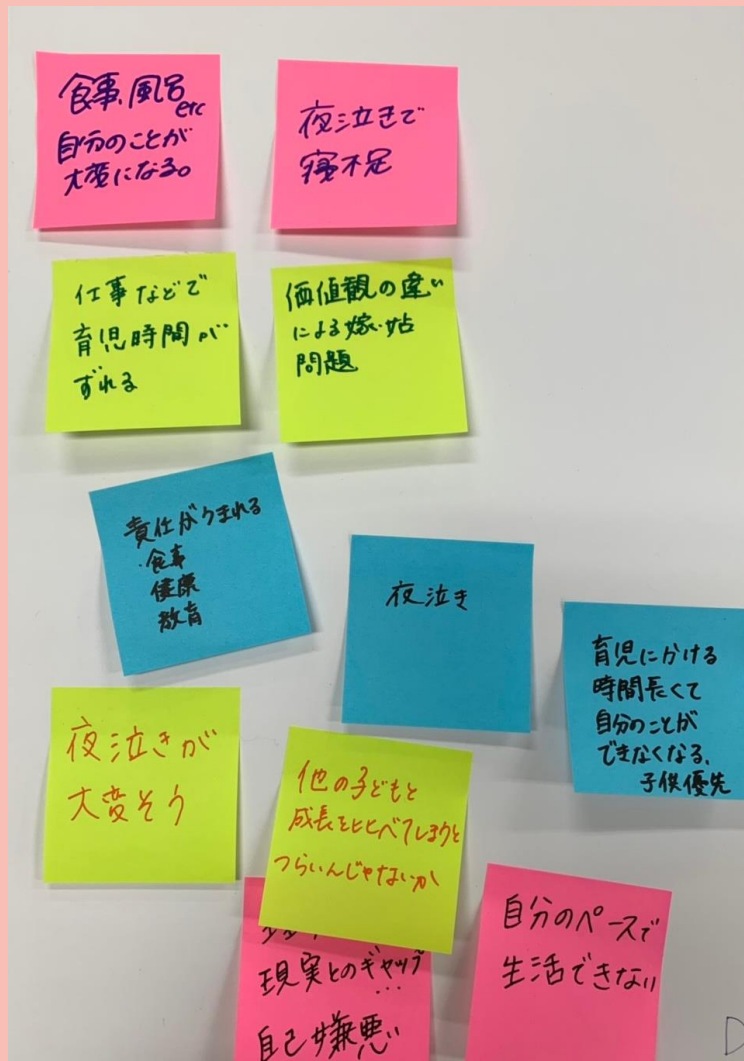
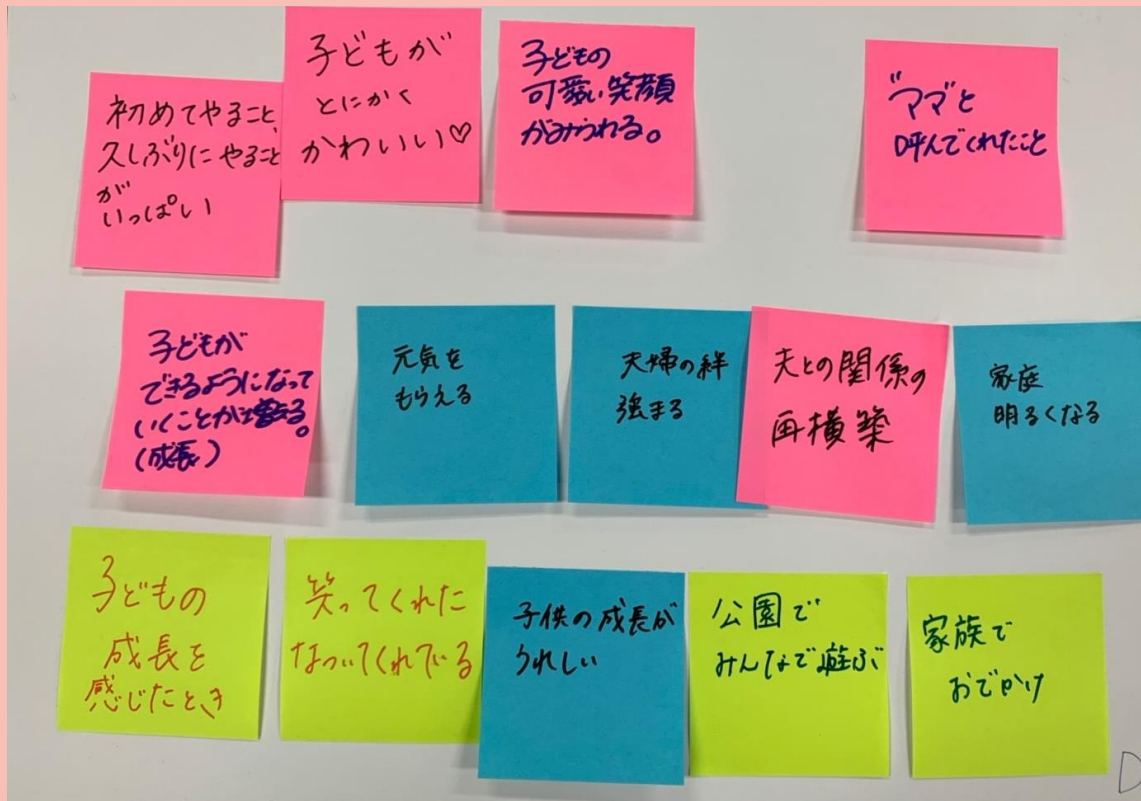
睡眠時間
がなさそう

手伝ってくる
人がいるのが...

<Bグループ>



<Dグループ>



第二部 「多職種ごちゃませカンファ」



①前半：里帰り出産で大ピンチ！孤立へと向かう

ゆかりママを助けて！（20分）

思っていた産後とあまりにも違い過ぎて、どんどん追い込まれていく…

「心身が不調なのに、医療者や家族に言えない」状態になってしまったゆかりママ。
どうしたら自分から周りに「助けて」と言えるようになる??

「マタニティブルーでしょ？産後だから仕方ないわ」「誰もが通る道よ」ではなく、
「今この瞬間」に、専門職や家族はどのような働きかけたら良い??

もしもあなたがゆかりさんなら、どうしてほしい??皆の知恵を出し合おう!!

②後半：大切な「産後一ヶ月の生活」をどう支える??（60分）

まずは「床上げ前」と言われる産後一ヶ月を、「どこ」で「どう」過ごすか??

このスタートが、今後の生活…いや、人生においてとても重要☆彡

今日ここに集った多職種ドリームチームの力を合わせ、夢のあるプランを考えよう!
わからない事は会場内の他職種に聞きに行こう!

発表のことも考えつつ、分かりやすくポスターにまとめよう!

※このワークの目的は、「完璧なケアプランを作成する事」では全然ありません。

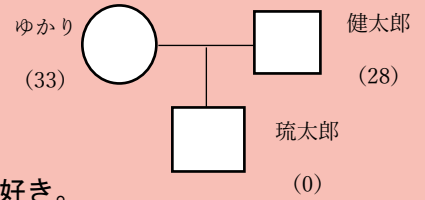
「明確な答えのない問い」に対し、まずはそれぞれの想いを「発散」し、グループごとに個性のある「収束（まとめ）」を目指しましょう🍀例えポスターが途中になったとしても、その理由や作成過程から学べる事が十分ある！（それを発表したら面白い♪）

③ポスターツアー（20分）

完成したポスターを活用して、全員が発表をしよう！多様な発想から学び合おう！



中村家のプロフィール



中村 ゆかり 33歳 女性

総合病院の看護師。看護学生の実習担当で、学生と学び合うのが大好き。

典型的な仕事人間だったが、夫の熱意に押され30歳で結婚し、退職後に隣県へ嫁いだ。

退職、引っ越し、再就職と慌ただしかったが、良い職場に恵まれた。いずれはソムリエになりたいほどお酒が大好きだが、妊娠を希望してからは禁酒している。里帰り出産の予定だが、幼少期から厳しく育てられ、特に実母は何かと感情的になりがちのため苦手意識を持っている。しかし、孫の誕生で仲良くなれるのではと淡い期待を抱いている。実父は現役で働いており、土日も不在であることが多い。

中村 健太郎 28歳 男性

某国産車メーカーの営業（営業成績 No.1） 明るくマイペース。妊娠前から妻に様々な育児の本を読むよう言われ、家事・育児の分担についても相談を受けており、もっと協力したいが、仕事が充実していて頭がいっぱい。子どもが好きで、父になる日を楽しみにしているが、正直新生児は想像がつかない。実家は東北で支援は得られないが、頼りになる妻を信頼し、大丈夫だろうと確信している。

出産までのものがたり

【妊娠初期】

軽い食べづわりのみで、すこぶる元気。理解のある職場で、沢山の祝福を受けた。

家事や仕事に支障はなく、入浴介助やおむつ交換も率先して行った。（夜勤は月に6~7回）

友達とランチに行ったり、子育てに関する本を読んだり充実していた。夫はとても仕事が忙しく、毎日朝早く出勤し深夜にクタクタで帰ってくるのであまり話が出来ない。（土曜と祝日は出勤、日曜も時々）

愛読書はたまごクラブ、子どもが育つ魔法の言葉、子育てハッピーアドバイス。

【妊娠中期】

絶好調。市主催のパパママ教室、赤ちゃん用品会社主催の子育て教室、地元の産婦人科の母乳育児の教室に夫と参加した。里帰り前の産婦人科は、里帰りの場合子育て教室等に参加できず、受診日も限られており寂しく思った。自分の住んでいる地域が保育所の入所激戦区であると聞き、情報収集を始めた。

【妊娠後期】

産休直前まで夜勤があり眠気が辛かったが、スタッフのフォローのおかげで休まず働いた。産休に入った途端腹部の張りを自覚し、子宮頸管 32mm と指摘され、2週間ウテメリンを内服した。手のしびれ、動悸、倦怠感に悩まされた。妊娠 32 週以降は地元の産婦人科に通院した。実家では母を疲れさせないよう料理や掃除を頑張った。会陰切開が怖いため、妊娠中期からカレンデュラオイルでマッサージを行った。後期からは乳頭マッサージを行った。予定日前に産まれると予想していたが、39 週を過ぎても兆候なし。日々散歩に励んでいたが、健診時に医師より「朝晩散歩？ 必要ないこととして破水したらどうするの？ 責任取れないよ」と言われ落ち込む。母からは「散歩やめたん？ 動かんとだめよ。」と言われ、戸惑った。

【里帰り先の産婦人科の情報】

- ・ WHO・ユニセフ認定の「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital)
- ・ 分娩制限を設けていない。医師が一名のため、分娩が重なると外来は中断となる。

- ・外来は常に予約で埋まっており、3時間前後の待ち時間がある。
- ・思春期外来・婦人科の患者に配慮し、男性の付き添いを禁止している。
- ・子連れの受診を禁止し、保育園と託児提携している。
- ・産後は母体の安静のため、必要最低限の面会のみを許可している。



【出産時の様子】

40週3日の受診時に子宮口3cm、頸管は熟化が見られ始めていた。念のため管理入院となる。翌朝10時からNSTを装着し、1時間ごとに内服(プロスタグランジンE2)による分娩誘発を開始。昼食後、陣痛が出現。助産師学生の実習同行を快諾する。13時の内服後、夫と談笑中に破水あり。子宮口5cm。夕方には生まれそうとの見立て。学生と夫に腰をさすってもらい、陣痛時には肛門部を押してもらった。臀部を分娩台に付けると痛みを逃しやすいと助産師に教わり、後半は落ち着いて臨んだ。

「何が漏れても大丈夫、お尻は裂けない！」という助産師の言葉が染みだ。医師到着。

●ゆかりのつぶやき●

「はあー垂直ね、垂直。学生さん押すの上手いし優しいしいてくれてありがとう！夫もありがとう！」
18:36 会陰切開後、通常分娩にて3,160gの男児を出産。すぐに啼泣あり。sPo2:97%、出血量668ml。

すぐにカンガルーケアと直母を実施。夫婦で感極まった。祖父母の面会后、夫の介助で夕食を食べる。

「今はアドレナリン出てるけど、結構縫ったし座薬入れましょう」と勧められ、ボルタレン座薬を挿肛。

【産後～退院】

車椅子で自室へ戻り清拭と更衣後、母子同室と授乳について説明を受け、母子同室開始。「ナースだし大丈夫だよー」と言われ、職業関係ないよーと困る。児は出生日の夜のみよく眠っていたが、母は緊張と興奮で眠れず、友人に出産報告を送った。中々排尿がなく、助産師に相談。糖水を補給後排尿が見られた。

【母乳育児の指導方法】

授乳度に前後の体重測定を行い、児の体重が何g増加したかを助産師に報告する。(体重計は別の階)増加量が少ない時には搾乳かミルクを追加する。一ヶ月健診までの間、指定の用紙に授乳と排泄の回数、補足した搾乳の量、沐浴の時間等を記録することを義務付けており、受診の際には持参が必要。

●ゆかりのつぶやき●

「おしっこ出て良かった！産後すぐに頻回授乳する事で受容体が増えるって習ったし授乳がんばろー！新生児の排尿量ってどのくらい？脱水大丈夫？！お股痛いし授乳姿勢どうすれば??」

<生後2日目>

児の口が小さく哺乳力が発揮できず、直母後ほぼ体重増加なし。頑張っても20ml程度しか搾れず相談すると、「え、これだけ？今大事な時期ですよ！脱水進むと黄疸も進むから！」と言われ、泣きながら搾乳した。縫合部の激痛、尿漏れと悪露が多いことを助産師に相談すると、「抜糸したら良くなるから」と返答。新生児室にて、「中村さん痛そうだけど…」「余計なこと言うなって怒られるよ」という助産師の会話を聞き驚いたが、立場的に分らんでもないと我慢した。評判の豪華な食事でも味気なく、夜は全く眠れなかった。

<生後3日目>

ビリルビン値が21であったため、24時間の光線療法を試行。

●ゆかりのつぶやき●

「脱水にしたのは私だ。ごめんね…眠れなくても痛くても良いから、ずっと一緒にいたい…」

<生後 4 日目>

内診および抜糸予定日。外来で 40 分ほど内診を待つ。痛みの限界で汗と涙が止まらなくなる。

●ゆかりのつぶやき●

「もう限界。縫合部痛すぎ。一体いつ呼ばれるの??こんな時まで八方美人きどらずに、すぐに自分で先生に言えば良かった…察してもらって無理なのね!!歩み寄り!!」

医師「これはかなり痛かったね…なんでそこまで我慢したの。優等生じゃなくていいんじゃない?」

●ゆかりのつぶやき●

「凶星—!でもあなたこそ、本当はすごく母子思いなのに、その態度で連携が阻害されてんの気付いて!」

その後医師は、報告が遅い!と関係スタッフを怒鳴り散らし、ゆかりの状況を逐一報告させ始めた。

<生後 5 日目・退院 0 日目>

体重の増えはあまり良くなかったが、黄疸は落ち着き予定通り退院となる。今後も搾乳と頻回授乳が必要と指導を受け、産院と同じ哺乳瓶と乳首(母乳相談室)を購入した。心身共に限界を感じていたが、なんとか身支度を整えてドレスを着せ、夫と祖母と共に実家へと退院した。事情を相談した地元の友人が、電動搾乳機や消毒器具などを貸してくれた。何となく申し訳なく、早くお返ししなくてはと感じた。

退院後両親が盛大に祝ってくれ、ホッとする。しかし授乳間隔をあげ過ぎてはいけないため、すぐに授乳や搾乳の準備(物品の洗浄・消毒・組み立て)に取り掛かった。部屋の温度と湿度の調整、寝具・衣類・おむつの確認や配置などやることは山積みで、誰かに手伝って欲しかったが、そんな雰囲気でもなく、一人で黙々と育児環境を整えた。電動搾乳機のあまりの便利さに感動し、友人に感謝した。

<退院 1 日目>

昼夜を問わず 30 分~1 時間おきの授乳(合間に搾乳)、頻回なオムツ交換(10 回前後)に目が回りそうだった。初めての沐浴では母がテキパキ手伝ってくれととも助かったが、シャワー中に赤ちゃんが泣くと、「可哀そうに、泣いとる!早く出て!」と言われ、慌てて済ませた。

不慣れなチャイルドシートに恐々と赤ちゃんを乗せ、母の運転で哺乳サポート外来を受診。体重の減少はなかったが、「うーん、心配。これから 1 日おきに通える?先生の診察もありで」と助産師。その日の受診は待ち時間を含めて 3 時間半を要した。母は疲れて終始不機嫌そうな表情をしている。

帰宅中の車の中、母が「この寒い中、1 日おきに新生児連れてこんな遠くまで来いって…この病院どうなっとるが?誰が運転すると思っとるんけ!」と怒り始める。今後は自分で運転しようと決意した。

一ヶ月健診まで実家で過ごすと思うと耐えられず、父に相談したが、「健診までは家にいなさい。料理や洗濯をしてもらえてなんだかんだ助かってるだろ」と言われた。

【ゆかの産後の心と体の調子】

身長: 168cm 体重: 46kg (産後 10 日間で 10 kg 減少した)

下肢の筋力低下あり。骨盤のグラつきと腰痛を感じている。

会陰部の痛みが強く、円座が手放せない。ロキソプロフェンを一日 3 回服用している。

睡眠はほとんど取れていない。尿漏れと多量の悪露のため、産褥パッドを 2 時間毎に交換している。

【フォーマルサポート・インフォーマルサポート】

産院や実家付近に子育て中の友人が多く、「辛かったらうちおいで」と言ってくれている。金沢には同級生や大学時代の同期・後輩がおり、「帰ってきたら手伝うよ」と言ってくれている。

また、よく野菜をくれる近くの畑の持ち主が民生委員で、「何かあれば連絡してきまっし!」と電話番号を教えてくれた。金沢市の子育てクーポンに「産前・産後ヘルパー」があった。

【祖母の想い】

娘の産前産後を助けるために一生懸命してきたつもりだが、持病もあって体力に自信がない。思っていたようには行かず、イライラしてしまう。運転が苦手で、妊婦健診はどうか送迎できたが、2時間おきや夜なんてとても無理。病院は何を考えているのか、何故娘がここまで苦しまなければならないのかと感情が爆発してしまった。娘も娘で、小さい頃からよく八つ当たりをして反省しているが、何でも一人で頑張ろうとするところが可愛くない。孫には何でもしてあげたい。

【祖父の想い】

子育ては自身の母と妻に任せ、大黒柱として忙しく働いてきた。娘と妻が感情的になっているが、状況が分かっておらずどう振る舞うべきか分からない。



多職種ごちゃまぜカンファ 前半(30分)

- ・「子育て支援の現状について」金田さん
- ・事例読み込み
- ・「里帰り出産で大ピンチ！
孤立へと向かうゆかりママを助けて！」(20分)



多職種ごちゃまぜカンファ後半(60分)

- ・「大切な産後一ヶ月の生活をどう支える？」

まとめ①

子育ても介護も多職種連携も、
一人で抱え込まない
関係づくりを♥
誰もが「居場所」を
必要としている



まとめ②

あいまいぴーは、
学生の学びのニーズをもとに、
「卒前卒後をつなぐ学びの
サードプレイス」を目指します！
垣根を越えた学びの連携
「正の循環」を
一緒に体感しませんか？



まとめ③

実習や学校だけでは
学べないことがある！

この出会い・ご縁が
今後の自分に繋がっていく



3. ごちゃませカンファ ポスター集

A班 ゆかりさんを助^助けたいねえ～

問題点

実母との関係

まじめな性格
甘えられない...
幼少期からの厳しい教育...

理想の分娩や産後と現実の違い

夫の協力が得られない

私たちにできること

ゆかりさんの気持ちを傾聴する

母とゆかりさんの間に第三者を介入させる

赤ちゃん言方問(保健センターに連絡お)

民生委員の方に連絡おる

子育てワ-ホンをを使う

今後のサポートについて一緒に考える

夫の休日に実家に来てもらう。協力してもらう。

子育て中の友人の家に遊びに行く。助言をもらう。

↳LINEや電話でもいいので連絡をとれるように

同級生... 子育て... 相談...

実母は... 何の心配も... ないから... 邪魔無... 注...

自分も... 思ってる... けれど... 何かな...

実家?? 金銭?? 注の10分

年下 栄養士 No. 11

不眠文 どうしたらいいか 今からでも... 娘一巻

Bグループ

祖母 - ゆかりの代を
取り持つ。

ゆかりに頼まれたこと
お手伝い...

妊娠把握

産後ヘルパー (70)

ゆかりの自覚に
行く

ゆかりさんと健太郎の話し相手

琉太郎の世話

助けてくれる人

息抜きの間

産休・育休をとり
産後に受けられる
施設やサービス
リサーチおる

積極的に育児に参加

ゆかりの話し相手

ゆかりの希望をきいて
役割分担を決めていく

70の意見を
参考に

ゆかり

健太郎

琉太郎

家族に具体的に
手伝いほしいこと
をリストアップ
お

思抜きの場

思抜きの場

思抜きの場

Cグループ 「祖母との関係性も大切にしよう」

自宅に帰ろう!!

お母さんの体の課題

- ・やせすぎ
- ・骨盤のぐらつき、尿もれ
- ・疲労感

完全母乳で
このまいくばき!?

- ・祖母との距離を一旦おく
- ・友人のサポートがある
- ・産前後のヘルパー制度
- ・民生委員さんのサポート
- ・旦那さんと育児に参加しやすい

家族の問題

- ・母親とのコミュニケーション不足
- ・祖母自身も相談相手がいない
- ・夫のサポート不足

進め方

- ・医療者からヘルパーを提案してもらう
(祖母に納得してもらう必要がある)
- ・金沢に帰ったら、
自分から保健センターに相談
(保健士さんに今の状況を認識してもらおう)

病院、環境の課題

- ・助産師が医師に相談できていない
(ビクビクしている)

1日おきの受診、
待ち時間が大変

どこで?

里帰りせずに住み慣れた場所で

どのように?

家事

- ・フォーマルサービス
・産前・産後ヘルパー
・生協(買い物)配食サービス
- ・インフォーマルサービス
・母・友人
↳ 来るときだけ

育児

- ・通院 バス・タクシー? 友人
- ・訪問看護
- ・教室
- ・デイケア

相談

- ・訪問看護
- ・支援センター
- ・保健師 訪問 1ヶ月
- ・産院の助産師

ママの心身

- ・痛み
- ・おっぱいや
- ・不眠
- ・デイケア
- ・お母さん同士の交流(先輩ママ)
- ・訪問看護
- ・保健師

母子サービスをつなぐ人がいればいいよね。

情報と連携

実家 父母

<メリット>

- ・食事を作ってくれ(家事)
- ・沐浴(育児)
- ・自分のケアがみられる
- ・祖母の思いが伝わる
- ・友人がいる

<デメリット>

- ・環境の変化
- ・母のストレス
- ・通院困難
- ・夫と離れる
- ・世代間の価値観の相違

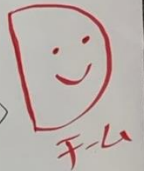
金沢 夫

<メリット>

- ・夫と一緒に子育てができる
- ・頼れる同期・後輩がいる
- ・産前・産後ヘルパーがいる
- ・親に気遣わずに子育てができる
- ・住み慣れた環境
- ・産院と変えやすい

<デメリット>

- ・家事
- ・夫がいないうらみ(面倒)
- ・動かしにくい→体に負担
- ・フォーマルサービスの知識が少ない
- ・事前のお手本がない



4. 参加者内訳

1. 学生 12名

内訳

学校名	職種	男	女	計
金沢大学	医師		3	3
	看護師		4	4
	作業療法士		1	1
	助産師		2	2
富山県立衛生総合学院	助産師		1	1
金沢星稜大学	子育て支援		1	1
計		0	12	12

2. 実務者（教員を含む） 15名

内訳

職種	男	女	計
医師		1	1
看護師		5	5
理学療法士		1	1
保健師		1	1
助産師		2	2
管理栄養士	1	2	3
行政職		1	1
子育て支援アドバイザー	1		1
計	2	13	15

合計 27名

5. アンケート集計

性別	男性	1	女性	20
所属	学生	10	実務者	11

IPE 参加経験

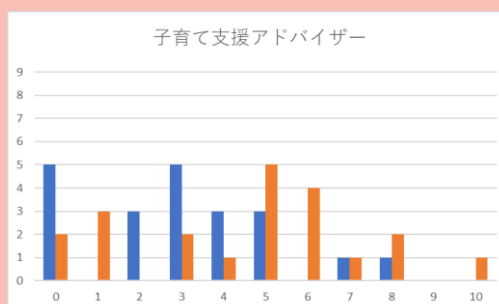
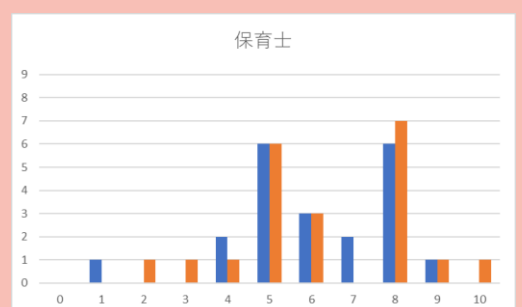
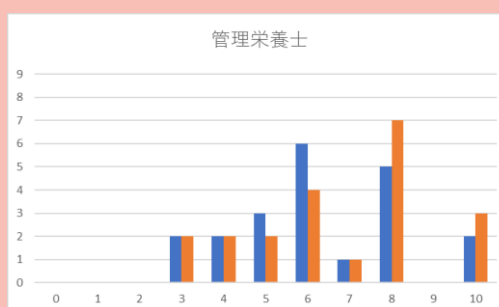
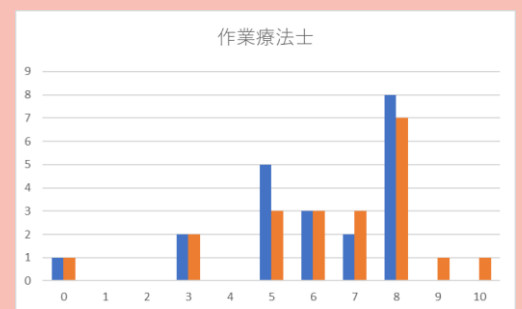
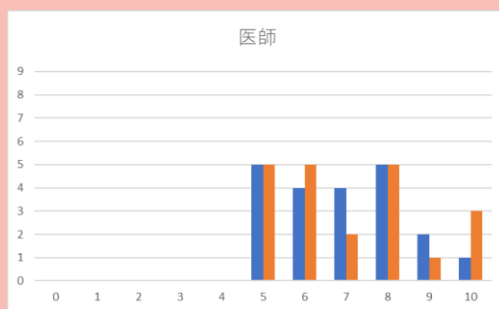
あり	12	なし	9
----	----	----	---

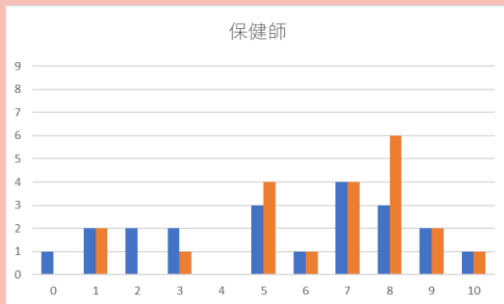
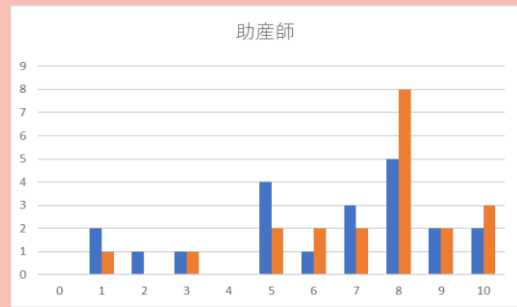
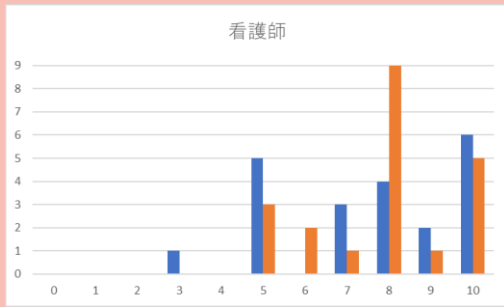
本日の満足度 (0~10 の 11 段階で評価)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
0	0	0	0	0	0	1	2	6	4	7	20

職種別の理解度 (事前 (青) と事後 (橙) で 0~10 の 11 段階で評価)

縦軸：人数、横軸：点数





<運営にあたり改善してほしい点（自由記載）>

- ・ 職種が違くと視点も違うので、いろいろなお話を聞けてとても楽しかったです。どういうお仕事なのか分からない職種もあるので、それぞれについて詳しく聞く機会があればいいなと思いました。
- ・ 何の時間だったか分からなくなるため、今から何をするのかスライドで表示してほしい。
- ・ 楽しかったです！ありがとうございました！
- ・ 保育士、子育て支援アドバイザー、行政職、保健師、助産師といった職種が「地域というフィールドでできること」をもっと知りたいと思いました！
- ・ ぜひ、次回開催楽しみにしています！
- ・ たくさんの準備ありがとうございました。
- ・ ポスターセッションの時間を長くし、質疑応答できたらいい。

6. 振り返り&アイデア出しシート

(1) 各専門職の役割について、本日特に学んだこと・印象に残ったことは何ですか？

- ・ 助産師さんや保健師さんはもちろん、医師や他職種との連携の大切さを再認識できた。
- ・ 産後にも利用できるサービスがたくさんある。訪問看護を利用することもできる。
- ・ 課題やサービスについて違う視点からの考えを知ることができた。
- ・ 対象者がかかえる人間関係をととても重視していた。大学教育において、この点がとても弱いと感じる。
- ・ 産後つらいママが、そういえば保健師もいたな、相談してみようかなと思えるように限られたマンパワーの中でも関わっていく必要があると感じた。
- ・ 助産師の方などは具体的な支援方法を知っている（産後ヘルパー、行政との連携）
- ・ 自分が当たり前に行っている事、知っている事は、周りの方々は知らないんだなと痛感しました。
- ・ 専門職だからこそ周りに頼れなくなってしまうこともある。同職種の方々へのサポートを怠らないことも大切な役割。
- ・ 多職種連携はその事例によって中心となる専門職が異なってくるので、その事を改めて実感した。ま

た、中心となった専門職の役割をさらに学ぶことができた。

- ・ 臨床で働く方々と一緒にお話しできたことで、疑問に思ったことがその場で解決されたり共感されたりして具体的に話が進んでいき、楽しかったです。
- ・ 男性（子育て経験者）からの率直な意見がとても印象的でした。
- ・ 産後のサポート体制を知れてよかった。病院だけでなく、保健センターを介して助産師さんと繋がれるとは知らなかったなので、とても勉強になりました。
- ・ 着眼点が他職種で異なるので、おもしろくグループワークすることができました。
- ・ 助産師の役割、求められていることがとても多いことを知った。
- ・ 府ループワークの中で出た芽で、母子とサービスをつなぐ人（高齢者の支援の場合：ケアマネ）がいれば、母子ともに安心して子育てを行える環境になっていくということが印象に残りました。
- ・ 助産分野に訪問看護やヘルパーを利用するということが印象的でした。また、お母さんたちに対してそれらの情報をきちんと伝えて、利用してもらうことも医療職の大事な役割なのではないかと思いました。
- ・ 子育て分野に訪看やデイケアがあると知って驚いたとともに、母親をサポートするためにこのようなサービスがもっと普及したらいいと思った。
- ・ 母子をとりまくサービスの一つに訪問看護を利用できることを初めて知りました。将来、助産師として必要な情報提供ができるようになることが必要なので、今回多くのことを学べて良かったです。
- ・ クリニック、病院でできることには限界がある。お母さんが「地域」で暮らそうと思った時、その「地域」というフィールドで力を発揮するのは保健師さん（サービスやクーポンの利用など）、子育て支援アドバイザーさんだとわかりました。
- ・ 医療機関から、家に戻るようすすめる案を出したグループがあったが、短いかかわりで本当にそれができるか…。そして、夫との家で過ごすことが本当によいのかと悩んだ。

(2) 多職種連携の必要性を感じた場面はありましたか？それはいつでしたか？

- ・ 連携とは、システムだけの問題だと思っていたけれど、意見を言いやすい環境を作ることも大切だと分かりました！管理栄養士さんの知識がすごくて、シンプルに、症例自分だけで解決するのではなく、他職種の方に相談するべきだと思った。
- ・ サービスや制度について、自分が知らないものを知りたいとき。
産後の身体の不調について。
- ・ 産前・産後その時々で必要になってくるサービスが変わってくるので、連携・情報共有しながら関わっていくことが必要だと思いました。
- ・ ポスター作成時に強く感じました。どうしても自分の知る所でしか話ができないため、他の職種の価値観が加わり、とても良いポスターに仕上げることができた。
- ・ 今日の事例検討で、どの母子であっても多職種連携は大切だと感じた。保健師だけでフォローできないことがたくさんあると改めて感じた。
- ・ 病院と病院・クリニック、病院と行政との連携。
民間企業がママを支えるためにも、病院、クリニック、行政ともしっかりと繋がっていくこと。
- ・ 多職種の方々がママまいびーのテーマで集まってくる、この気力に皆さんの気持ちを感じられました。

- ・ 病院にいる医療者だけでは子育てを支援するママをサポートできない。そのためには地域の医療スタッフとの連携が必須。
- ・ 一つの専門職だけではあまりに現実的になりすぎ、新たなアイデアが出てこない事もあるので、そのような意味では多職種連携は重要だと思った。
- ・ 「病院の医療者がどのように対象をとらえるかで、その後の保健師のサポートが変わってくる」「管理栄養士がここで入れたらって思うけど、なかなか外来や病棟で患者さんと触れる機会がない」と伺い、看護職のアセスメントと多職種へつなげる力の重要さを感じました。
- ・ 病院で会う、妊産婦さんの困難事例にあった時。(シングルで出産、家族が遠方、家族や夫が病気、上の子に障害あり etc.)
- ・ 自分の分野外の事ばかりの事例だったので、ケアプラン作成時は全てが必要さを感じました。いち市民として参加できた気がします。
- ・ 地域のサポートにどうやってつなげるのか、そこに多職種連携の必要性を感じました。また、つなげる必要性を各専門職が発信していかないと、つなげるきっかけに至らないことも学びました。
- ・ どんなサービスがあるのかを知らない。ケアを必要とする人とサービスをつなぐ人がいない。
- ・ 個々でサービスを提供することはできるけれど、そのサービスに繋げるために、多職種の連携が必要だと感じました。
- ・ 母子保健に対する様々なサービスがあるにも関わらず、それがお母さんに認知され、利用されていないということは産院、病院、行政、地域の訪問看護サービスなどの連携がまだ十分ではないのではないかと感じた時。
- ・ それぞれの視点が違うため、対象者を多角的に見て分析できると感じた。どの分野で特化しているか理解すると専門職への依頼やサービスの利用もスムーズに行くのではないかと感じた。
- ・ 慢性期の病院へ実習に行った際、生活のメインはリハビリでしたが、そこには Dr、Ns だけでなく、言語聴覚士などほんとに多くの職種が関わっていて多職種連携の必要を感じました。
- ・ ゆかりさんが色んな方面から色んなことを言われて混乱しているとき。「話を統合して、ゆかりさんのケアと子育てに方向性を一致させていく」場が必要だと思いました。
- ・ 産後のお母さんがまとまった希望や意見を出せない中で、各職種が情報をもちよってお母さんを支える必要性を感じた。それとともに、声を上げられないお母さんをどう支えるか難しさを感じた。

(3) 次回以降の企画として、いずれは地域のママにも参加して頂きたいと考えています。素敵な企画のアイデアをどんどん出して、グループで共有してまとめて下さい。

- ・ 男性による育児症例の検討。→互い(男女)が何を見て、感じて、育児をしているかを知る。
- ・ 子どもとの遊び方
- ・ こんなサービスあったらいいな、をみんなで考えてみたいです。
- ・ お父さんの本当の気持ち
- ・ 昭和の子育て方法を平成のママたちが知ってしまおう！のコーナー こんな事普通にしてみました…編。粉ミルクが当然のように TV や母子手帳でも宣伝してた、産後〇〇日は床あげしない、など。なんでそうだったの？今はどうなの？ばーちゃんが言う昔の育児を知らずにおくと少しもったいないこともあるかも。

- ・ 地域で子育てをするためには？地域で介護・医療を支えるには？
- ・ 医療や福祉の関係者だけでなくさらに輪を広げて、物作りをする人々や情報系の人々を加えても楽しそうです。
- ・ みのおママの学校（大阪）が、ここと同じような事をされています。アイデアではありませんが、一度PCで探してみてください。
- ・ 今回の事例で、交流・サポートを受けられる施設なども知れたので、とても良かったです。
- ・ 体験談・親子交流・世代交流の場
- ・ 専門職で感じる連携のジレンマとか出し合って、どうすべきか考える機会も必要だと思いました。
- ・ ママ自身の言葉が私たち専門職を動かすこともあるので、生の声を聴くことは必要だと思います。子供と一緒に参加することが出来る配慮が今回されていたので、地域のママの参加には、子供の安全や生きやすいと感じるハードルを下げておくことも必要かと思いました。
- ・ ママの参加をしていくことで、ただのおしゃべり会にならないことも気がかりです。そこからニーズを見出していくことができれば次へつながると思いますが…
- ・ 実際のケースがとても良かったので、是非また。
- ・ 地域のママの率直なご意見をききたいです！
- ・ ママが医療者にしてほしいこと、知りたいことについて
- ・ リプロダクションヘルスの観点で、周産期に関わらず思春期などの分野も話し合ってみたい。
- ・ ママの実際の不安を聞いて、どのような支援を求めているか知り、医療側としてできることはないかアイデアを出す。
- ・ 本日の内容と似ていますが、産後のうつが問題になっているので、そのあたりをピックアップしてみたいかがでしょうか。
- ・ （子育て経験のある）男性も来ると良い。
- ・ 学生さんが、産む前にいろんなリソースを知っておくことができる場になるとよいと思いました。
- ・ 助産師さんにどんどん意見や経験を出していただきたい。

(4) その他感想・気づいたことなどをご自由にご記載ください。

- ・ ファシリ難しかったです…！また勉強します…！
- ・ 興味のある助産師の方のお話が聞けてとても勉強になった。もう少し休憩時間に色々な話ができたらよかった。
- ・ 企画の内容が充実していました。短い時間の中でタイムマネジメントもすばらしかった。
- ・ とても楽しい時間でした。
- ・ 若い人や学生さんと交流できて嬉しかったです。すばらしい学生さんばかりで、将来が楽しみです。子供たちがいることで場の空気が和んでいました。子連れで参加できることに感謝です。子供にとっても良い経験になりました。お疲れ様でした。
- ・ 子育てに対して、サービスを利用していくという考えが今までなかったので考えが改まりました！頼ったり、頼られたり、家族・地域みんなで子育てを行えるようになればいいなと感じました。
- ・ 様々な職種の方とお話しできて学びが深まった。

第2回 いしかわ多職種連携教育プロジェクト ママまいびー 報告書

2019年4月5日 発行

発行者：金沢大学医療系学生団体 Konnect

大村裕佳子

Special Thanks

<ベイビーリゾートコロコ>

金田 倫知 様

丸山 貴之 様

<金沢大学>

総合診療科 医学保健学総合研究科

野村 英樹 特任教授

医薬保健研究域保健学系 看護科学領域 公衆衛生・在宅看護学分野

塚崎 恵子 教授

Ishikawa More
Amazing IPE

